



【議事】

「柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針」について

(2) 市立学校を取り巻く現状及び課題

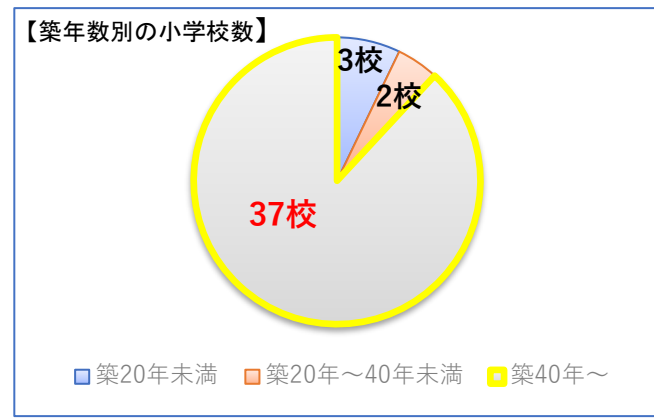
ア 学校施設の老朽化等

1 市立学校施設の概要（小学校）



名称	住所	20地域	延床面積 (㎡)	建築年度		築後年数	児童生徒数 (人)	学級数 (学級)		複合・併設
				普通学級	特別支援					
1 柏第一小学校	あけぼの1-7-6	柏中央	6,359	1963	S38	60	629	20	4	こどもルーム
2 柏第二小学校	豊四季310	新富	5,618	1965	S40	58	450	15	4	こどもルーム
3 柏第三小学校	若葉町4-54	富里	10,224	1965	S40	58	1,038	31	7	こどもルーム
4 柏第四小学校	松ヶ崎1182-9	高田・松ヶ崎	6,149	1969	S44	54	680	22	3	こどもルーム
5 柏第五小学校	柏932-7	柏中央	7,309	1968	S43	55	922	27	4	こどもルーム
6 柏第六小学校	豊四季台4-2-1	豊四季台	5,105	1963	S38	60	539	18	4	こどもルーム
7 光ヶ丘小学校	流山市向小金4-20-1	光ヶ丘	6,357	1966	S41	57	919	27	4	こどもルーム
8 土小学校	増尾4-4-1	増尾	5,489	1966	S41	57	444	13	4	こどもルーム
9 富勢小学校	布施925-1	富勢	5,686	1965	S40	58	634	19	5	こどもルーム
10 田中小学校	大室1193-3	田中	10,787	1971	S46	52	772	24	4	こどもルーム
11 田中北小学校	柏市船戸1-7-1	田中	14,970	2022	R4	1	830	26	5	こどもルーム
12 土南部小学校	新逆井1-10-1	南部	5,699	1969	S44	54	500	16	4	こどもルーム
13 柏第七小学校	篠籠田723-1	豊四季台	6,196	1970	S45	53	813	24	3	こどもルーム
14 柏第八小学校	永楽台2-8-1	永楽台	5,880	1971	S46	52	492	17	4	こどもルーム
15 酒井根小学校	酒井根19-2	酒井根	5,666	1971	S46	52	613	19	4	こどもルーム
16 西原小学校	西原4-17-1	西原	6,522	1972	S47	51	611	20	4	こどもルーム
17 旭小学校	旭町6-5-17	旭町	5,656	1973	S48	50	556	18	3	こどもルーム
18 藤心小学校	藤心880-1	藤心	4,346	1974	S49	49	300	11	4	こどもルーム
19 中原小学校	中原1821-1	増尾	6,285	1975	S50	48	622	20	4	こどもルーム
20 酒井根西小学校	酒井根662-1	酒井根	5,098	1976	S51	47	203	7	2	こどもルーム
21 高田小学校	高田376-3	高田・松ヶ崎	5,143	1977	S52	46	436	14	3	こどもルーム
22 名戸ヶ谷小学校	名戸ヶ谷474-1	増尾	5,010	1976	S51	47	417	13	3	こどもルーム
23 増尾西小学校	増尾台3-5-9	増尾	6,224	1978	S53	45	570	18	3	こどもルーム
24 逆井小学校	逆井452-2	南部	5,957	1978	S53	45	302	12	3	こどもルーム
25 富勢東小学校	布施2176-2	富勢	5,184	1979	S54	44	104	6	1	こどもルーム
26 豊小学校	豊四季610-2	富里	5,125	1980	S55	43	525	17	4	こどもルーム
27 酒井根東小学校	酒井根1-2-1	酒井根	5,378	1981	S56	42	420	14	3	こどもルーム
28 旭東小学校	旭町5-3-9	旭町	4,011	1981	S56	42	327	12	3	こどもルーム
29 松葉第一小学校	松葉町5-3	松葉	6,178	1981	S56	42	718	22	4	こどもルーム
30 花野井小学校	花野井1652-34	田中	5,796	1982	S57	41	278	12	3	こどもルーム
31 松葉第二小学校	松葉町2-16	松葉	5,944	1982	S57	41	580	19	5	こどもルーム
32 富勢西小学校	布施84-2	富勢	5,524	1983	S58	40	190	7	3	こどもルーム
33 十余二小学校	柏の葉4-4-1	田中	5,146	1987	S62	36	540	18	4	こどもルーム
34 風早南部小学校	藤ヶ谷新田111-2	風早南部	5,595	2010	H22	13	286	12	2	こどもルーム
35 風早北部小学校	大井1854-1	風早北部	6,102	1969	S44	54	673	22	4	こどもルーム
36 手賀西小学校	泉541	手賀	2,996	1972	S47	51	112	6	2	こどもルーム
37 手賀東小学校	手賀479-7	手賀	3,128	1984	S59	39	69	6	1	こどもルーム
38 高柳小学校	高南台3-14-12	風早南部	6,087	1972	S47	51	678	21	4	こどもルーム
39 大津ヶ丘第一小学校	大津ヶ丘3-50	風早北部	5,949	1978	S53	45	310	12	3	こどもルーム
40 大津ヶ丘第二小学校	大津ヶ丘4-8	風早北部	4,850	1978	S53	45	300	12	3	こどもルーム
41 高柳西小学校	しいの木台3-2	風早南部	4,850	1980	S55	43	282	11	3	こどもルーム
42 柏の葉小学校	十余二348-51	田中	15,144	2012	H24	11	1,264	38	4	こどもルーム
小学校42校 計			260,722				21,948	718	148	

- ・ 小学校の延床面積の平均は6,208㎡
- ・ 令和5年度に移転した田中北小学校は、床面積が約15,000㎡と規模が大きい
- ・ 築40年以上の小学校は全42校中37校 (全体の88%)
- ・ 小学校全校でこどもルームを校舎内または敷地内に設置
- ・ 学校規模は、11学級以下の学校から25学級以上の学校まで様々ある
- ・ 特別支援学級は、すべての小中学校で整備



※ 「令和5年度学校施設要覧」をもとに作成。児童生徒数・学級数は令和5年5月1日時点

※ 建築年数の赤字は築40年以上、青字は築20年以上を示す

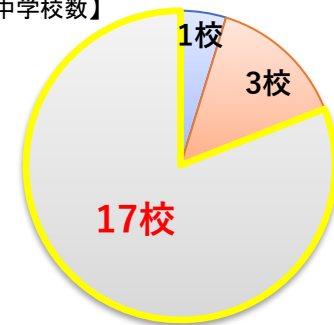
2 市立学校施設の概要（中学校・高等学校）



	名称	住所	20地域	延床面積 (㎡)	建築 年度		築後 年数	児童生徒 数(人)	学級数(学級)		複合・併設
									普通 学級	特別 支援	
中 学 校	1 柏中学校	明原4-1-1	豊四季台	13,405	2001	H13	22	492	13	3	
	2 柏第二中学校	弥生町6-6	新田原	8,318	1970	S45	53	863	23	4	
	3 土中学校	増尾1-23-1	増尾	6,210	1966	S41	57	226	7	2	
	4 富勢中学校	根戸467-1	富勢	7,335	1966	S41	57	506	15	3	
	5 田中中学校	大室249-9	田中	6,932	1970	S45	53	617	18	3	
	6 光ヶ丘中学校	光ヶ丘4-23-1	光ヶ丘	7,041	1968	S43	55	584	17	3	
	7 柏第三中学校	篠籠田987-1	豊四季台	7,527	1972	S47	51	537	15	3	
	8 柏第四中学校	名戸ヶ谷1-6-8	永楽台	6,400	1973	S48	50	428	12	4	
	9 南部中学校	南増尾6-16-1	南部	6,299	1974	S49	49	322	10	1	
	10 柏第五中学校	高田919-1	高田・松ヶ崎	6,824	1977	S52	46	607	17	2	
	11 酒井根中学校	酒井根1-3-1	酒井根	7,686	1978	S53	45	666	18	3	
	12 西原中学校	西原6-13-1	西原	6,985	1979	S54	44	492	13	4	
	13 逆井中学校	逆井555	藤心	7,270	1981	S56	42	615	17	4	
	14 松葉中学校	松葉町3-14	松葉	7,379	1981	S56	42	657	18	4	
	15 中原中学校	中原1816-2	増尾	6,520	1986	S61	37	426	12	3	
	16 豊四季中学校	豊四季287-7	新富	7,204	1990	H2	33	565	16	2	
	17 風早中学校	塚崎1319	風早北部	5,953	1967	S42	56	311	9	2	
	18 手賀中学校	柳戸690	手賀	3,966	1968	S43	55	107	3	2	
	19 大津ヶ丘中学校	大津ヶ丘1-25	風早北部	7,219	1978	S53	45	589	17	2	
	20 高柳中学校	高南台1-1-1	風早南部	6,297	1981	S56	42	558	15	3	
	21 柏の葉中学校	柏市十余二337-93	田中	8,180	2018	H30	5	370	12	2	
中学校21校 計				150,950				10,538	297	59	
	1 柏高等学校	船戸山高野325-1	田中	20,604	1977	S52	46	891	29	—	
高等学校1校 計				20,604				966	29	—	

- 中学校の延床面積の平均は7,188㎡
- 延床面積が最大の学校は、昭和50年代に生徒数が2,000人を超えていた柏中学校で13,000㎡を超える
- 築40年以上の中学校は17校（全体の81%）
- 学校規模は6学級以下の学校から18学級以上の学校まで様々ある
- 特別支援学級は、すべての小中学校で整備
- 市立柏高校は最も古い校舎は築46年が経過

【築年数別の中学校数】



■ 築20年未満 ■ 築20年～40年未満 ■ 築40年～

※ 「令和5年度学校施設要覧」をもとに作成。児童生徒数・学級数は令和5年5月1日時点

※ 建築年数の赤字は築40年以上、青字は築20年以上を示す

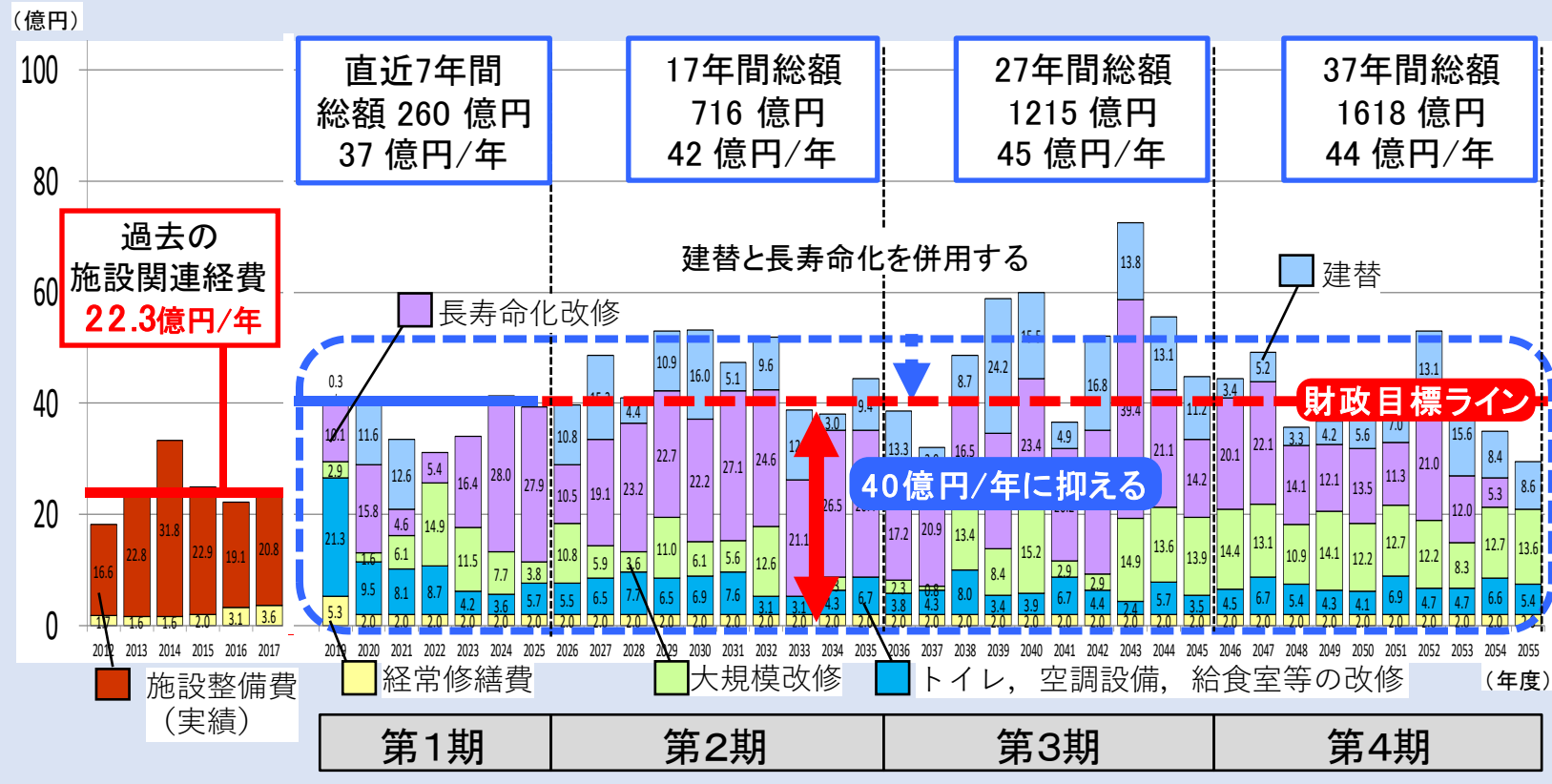
3 市立学校施設の整備費用



■長期の整備費用

■ 将来施設経費の推計(建替と長寿命化改修を併用し、平準化)

詳細な実態把握に基づき、建替・長寿命化改修を選択、効率的な修繕・改修により整備費用を削減。



- 施設の実態に合わせ、「建替」と「長寿命化改修工事」を併用
- 『40億円/年』を財政目標ラインとして計画的に施設の改修等を実施
 - ① 第1期：平成28年度～令和7年度
 - ② 第2期：令和8年度～令和17年度
 - ③ 第3期：令和18年度～令和27年度
 - ④ 第4期：令和28年度～令和37年度
- 前回の計画策定以降、田中小学校の建替や土小学校の長寿命化改良工事など大規模な施設整備が進行

⇒ **令和7年度末までに「柏市立学校施設個別施設計画」を更新**

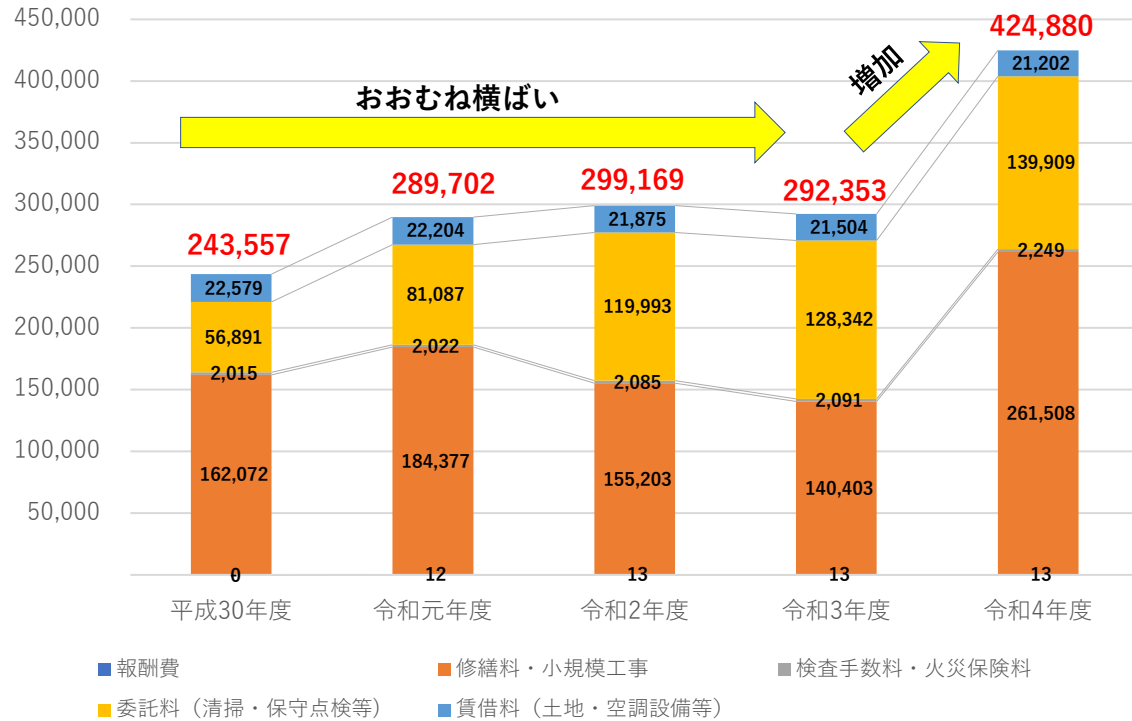
出典：柏市立学校施設個別施設計画 (H31.3)

4 学校施設の維持管理コスト概要（1）

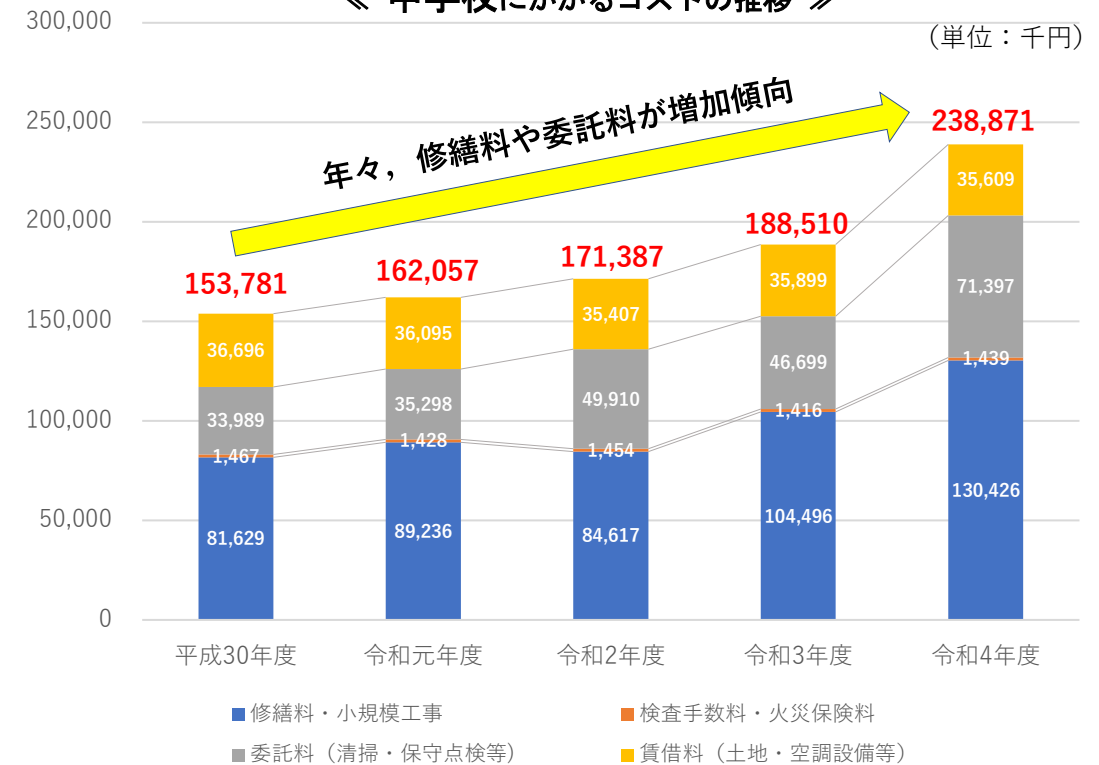
※学校全体のランニングコスト



《 小学校にかかる維持管理コストの推移 》 (単位：千円)



《 中学校にかかるコストの推移 》 (単位：千円)



※小中学校の維持管理にかかる各年度の決算額をもとに作成

▼ **近年、小中学校ともに、「修繕・小規模工事」「委託料」に関するコストが増加傾向**

※令和2,3年度はコロナ感染拡大で休校期間等があったが学校の維持管理にかかるコストには顕著な影響は確認されない

▼ **H30→R4の5年間で比較すると、「委託料」が約2.3倍に増加、「修繕料・小規模工事」が約1.6倍に増加**

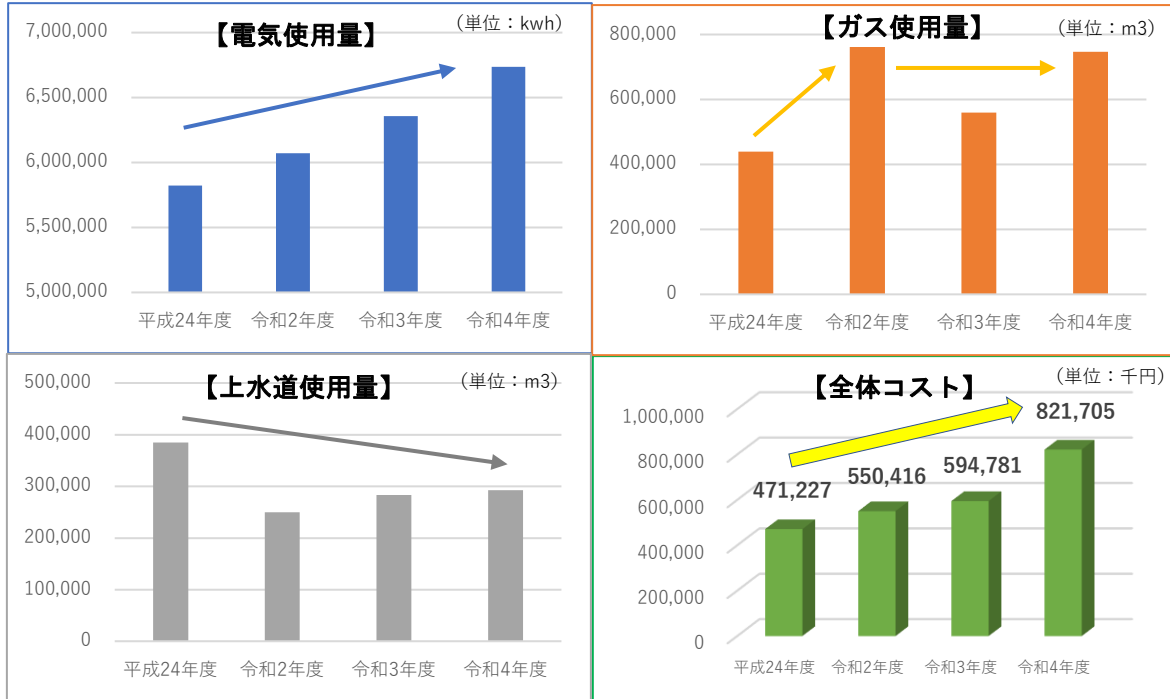
(H30)90,880千円 ⇒ (R4)211,306千円 (H30)243,701千円 ⇒ (R4)391,934千円

4 学校施設の維持管理コスト概要（2）

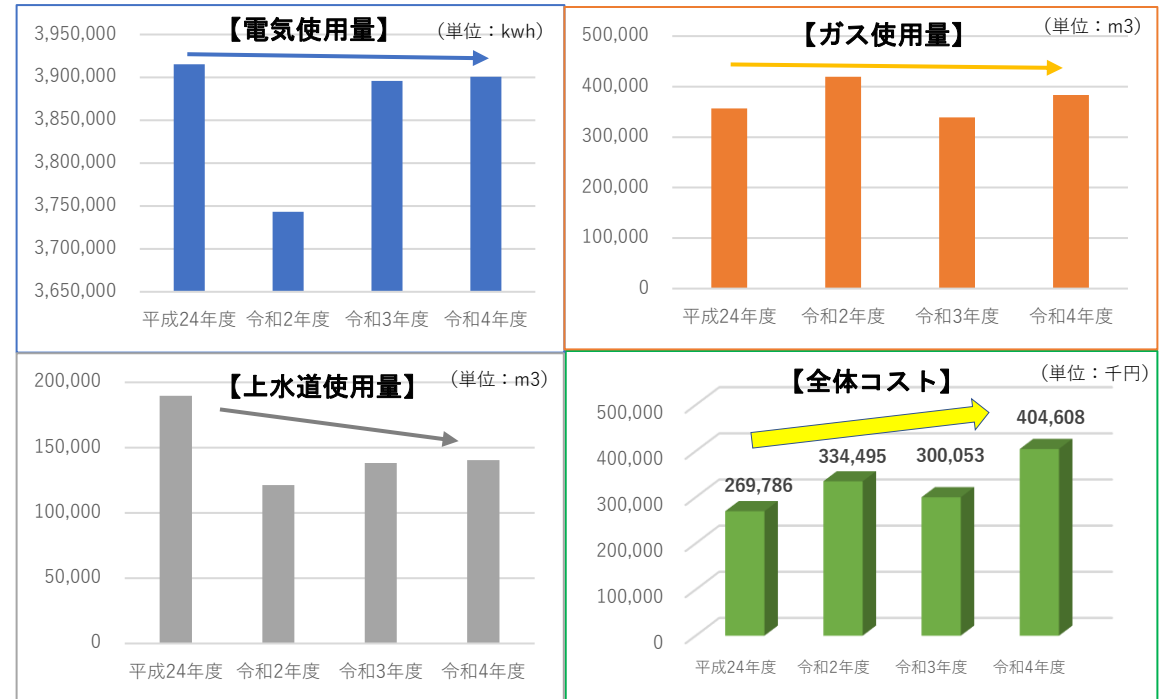
※光熱水費コスト・使用量



《 小学校の光熱水費・使用量 》



《 中学校の光熱水費等コスト・使用量 》



※「第2期柏市公共施設等総合管理計画策定に向けた公共施設実態調査結果」及び光熱水量使用量に関する資料をもとに作成

▼ **小中学校ともに、光熱水費が増加傾向** ※令和2,3年度はコロナ感染拡大で休校期間等があったことを考慮する必要あり

⇒ **小学校で1.7倍以上に増加** (H24)471,227千円 → (R4)821,705千円 ※約 3.5 億円/年の増加

⇒ **中学校で約1.5倍に増加** (H24)269,786千円 → (R4)404,608千円 ※約 1.3 億円/年の増加

▼ **【電気量】 小学校で増加傾向, 中学校は横ばい**

【都市ガス】 小学校で令和2年度以降増加傾向, 中学校は横ばい

【上水道】 小中学校ともに減少傾向

★ 小中合算した使用量はこの10年間で、

【電気】 16%増加

【ガス】 113%増加

【水道】 24%減少

5 給食施設

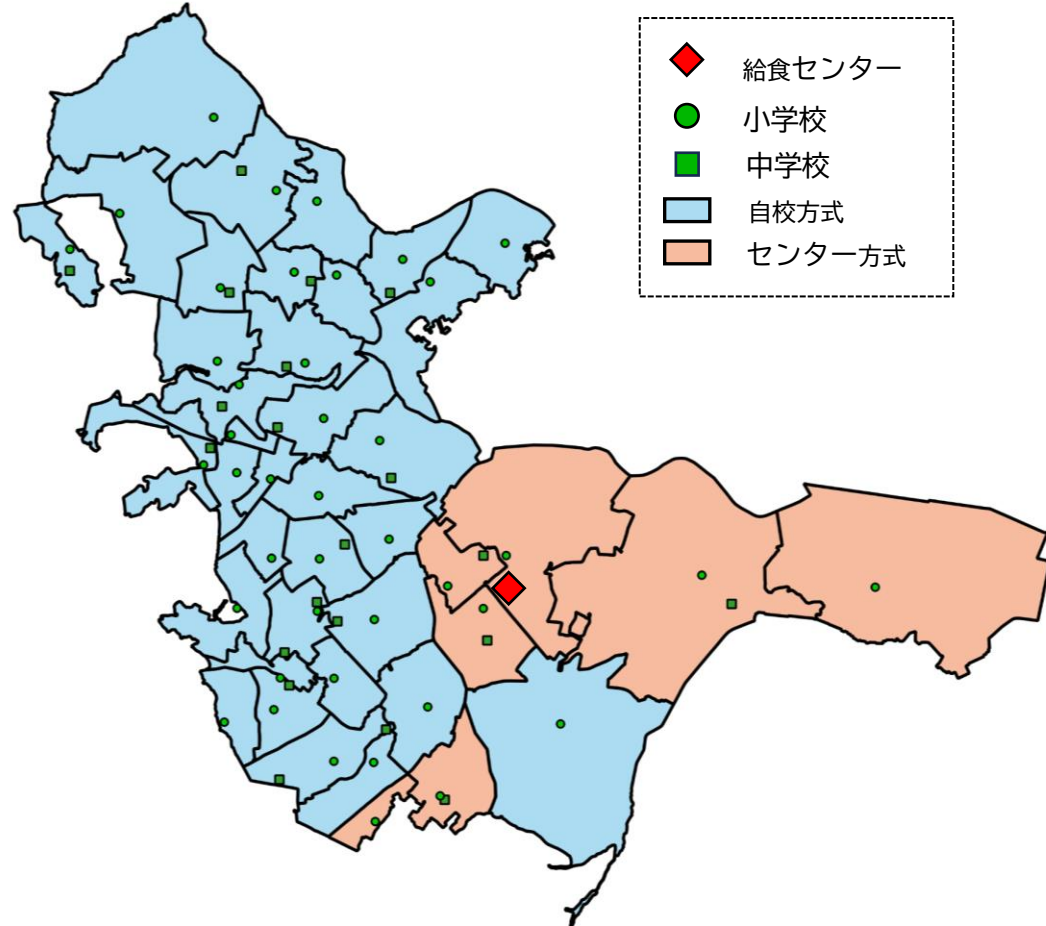
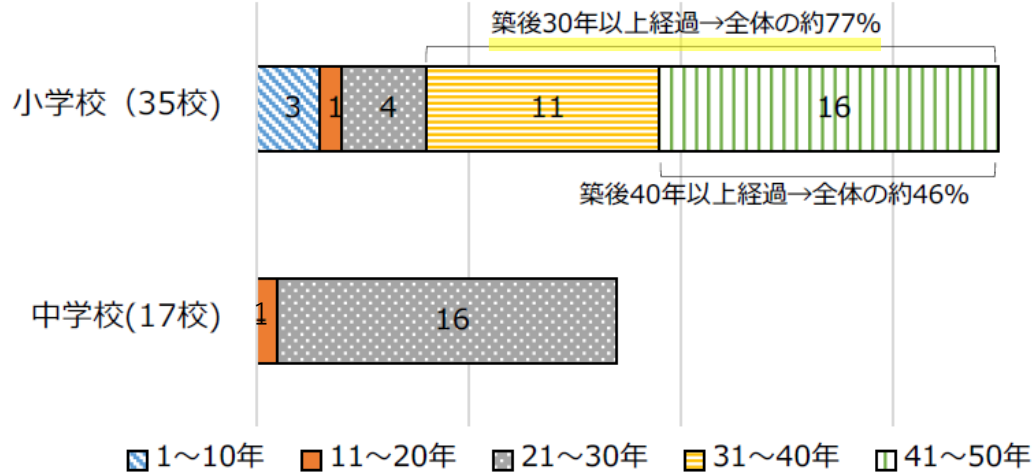


(1) 調理方式の現状

- 旧柏地域の小中学校（**51校**）と風早南部小学校では、学校の敷地内に調理場があり、その学校分の給食のみを調理する「**自校方式**」を採用
- 旧沼南地域の小中学校（**11校**）では、複数の学校の給食を学校給食センターで調理し、給食時間までに配送する「**センター方式**」を採用

(2) 給食施設の老朽化

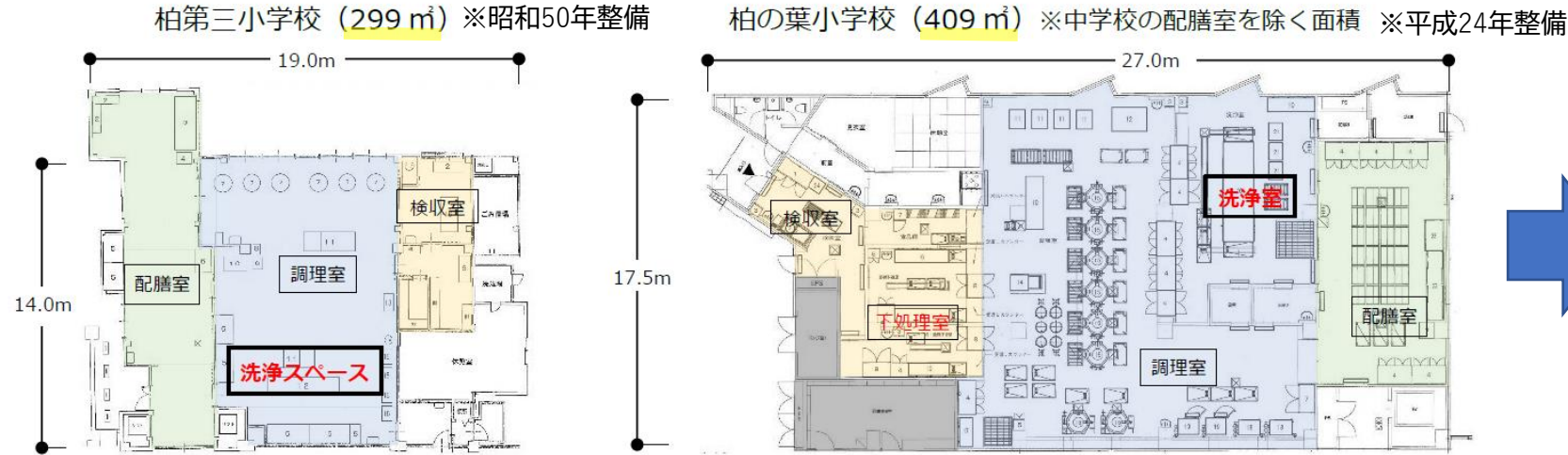
- 本市では、昭和39年から学校給食を開始
- 特に、給食開始が早かった**小学校における給食施設の老朽化が進行**



5 給食施設



(3) 給食施設の比較例



- おおむね同じ食数を調理する施設でも、学校給食衛生管理基準に適合した施設を整備する場合、**施設規模は大きくなる傾向**
- 【柏第三小学校の給食室の課題】
- ▼ **施設が狭く**作業導線が交差
- ▼ ウェット方式で床を濡らさない配慮が必要
- ▼ 調理室内に洗浄スペースがある

(4) 学校給食センターの現状

開所年月	昭和 53 年 5 月 (築 45 年経過)
想定調理能力食数	約4,500食/日 (2 回転調理)
都市計画用途地域	第一種住居地域
種類・構造	工場・1 階 RC 造, 2 階 S 造
敷地面積	5,115 m ²
建築面積	889.75 m ²
延床面積	1,082.76 m ²
作業方式	ウェット施設・ドライ運用
事業方式	公設民営(業務委託)
アレルギー対応	除去食対応なし

- 4,500食を調理する施設として**狭い**
⇒ 2回転調理 (1つの調理釜で1日に2回調理) を実施
- 給排水設備が耐用年数を超過
⇒ 安全面・衛生面で**早急な改善が必要**
- **献立の工夫に困難**が生じている

5 給食施設



(5) 自校方式とセンター方式における給食提供コストの比較

	自校方式 (小学校)	自校方式 (中学校)	センター方式
学校数/施設数	35校	17校	1施設(11校)
児童生徒数	19,524人	8,973人	3,845人
年間食数	3,865,752食	1,737,173食	795,145食
施設面積	10,821㎡	7,828㎡	1,082.76㎡
令和5年度予算額	1,449,758千円	692,492千円	239,871千円
児童生徒1人あたり	74,255円	77,175円	62,385円
1食あたり	375円	399円	302円
1人あたり施設面積	0.50㎡	0.79㎡	0.26㎡



- ❖ **自校方式は**、施設が分散するため、センター方式よりも施設、設備、人員が多く必要で、**1食あたりのコストが割高**になる
- ❖ 給食施設ごとに**改修修繕費・維持管理費等が必要**になる

(6) 調理食数別給食提供コスト（調理等業務費のみ）の比較

	300食以下		301食~600食		601食~900食		901食以上		4,500食
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	学校給食センター
学校数	3校	1校	15校	8校	12校	7校	5校	1校	1施設
1食あたりの費用	436~ 791円	439円	248~ 356円	231~ 360円	206~ 257円	222~ 259円	283~ 196円	216円	179円



- ❖ **小規模な学校は**、1食あたりの調理コストが比較的**高額**になる

6 通学路の安全対策



(1) 通学距離の現状

- ▶ 各校の通学区域は柏市が規則で規定
- ▶ 通学路は安全面を考慮し各学校長が指定
- ▶ 市立小中学校における「最長通学距離」は下のとおり

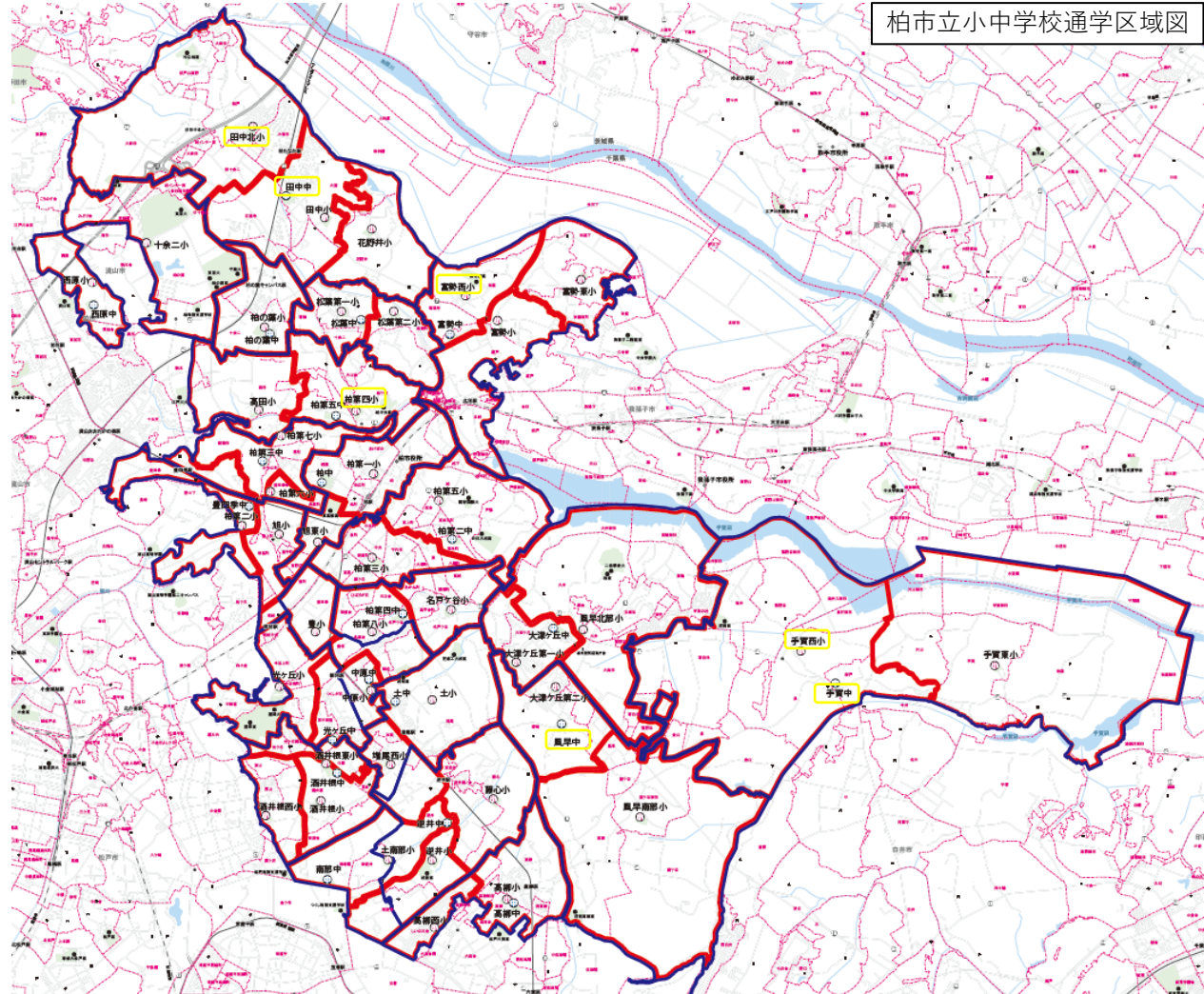
No.	学校名	最長通学距離
1	柏第一小学校	2.30 km
2	柏第二小学校	2.50 km
3	柏第三小学校	1.10 km
4	柏第四小学校	3.00 km
5	柏第五小学校	2.50 km
6	柏第六小学校	2.50 km
7	光ヶ丘小学校	2.00 km
8	土小学校	1.45 km
9	富勢小学校	3.40 km
10	田中小学校	2.50 km
11	田中北小学校	3.00 km
12	土南部小学校	2.10 km
13	柏第七小学校	1.30 km
14	柏第八小学校	1.30 km
15	酒井根小学校	1.30 km
16	西原小学校	1.20 km
17	旭小学校	1.00 km
18	藤心小学校	2.00 km
19	中原小学校	1.85 km
20	酒井根西小学校	2.00 km
21	高田小学校	1.20 km
22	名戸ヶ谷小学校	1.90 km
23	増尾西小学校	2.50 km
24	逆井小学校	2.00 km
25	富勢東小学校	1.80 km
26	豊小学校	1.50 km
27	酒井根東小学校	2.00 km
28	旭東小学校	1.00 km
29	松葉第一小学校	1.80 km
30	花野井小学校	1.50 km
31	松葉第二小学校	1.50 km
32	富勢西小学校	3.00 km
33	十余二小学校	1.30 km
34	風早南部小学校	2.10 km
35	風早北部小学校	2.50 km
36	手賀西小学校	3.80 km
37	手賀東小学校	2.50 km
38	高柳小学校	1.80 km
39	大津ヶ丘第一小学校	1.50 km
40	大津ヶ丘第二小学校	1.50 km
41	高柳西小学校	1.10 km
42	柏の葉小学校	1.90 km
1校あたり平均		1.95 km

No.	学校名	最長通学距離
1	柏中学校	1.40 km
2	柏第二中学校	2.50 km
3	土中学校	2.00 km
4	富勢中学校	2.60 km
5	田中中学校	4.00 km
6	光ヶ丘中学校	2.70 km
7	柏第三中学校	2.00 km
8	柏第四中学校	2.70 km
9	南部中学校	2.10 km
10	柏第五中学校	2.70 km
11	酒井根中学校	2.00 km
12	西原中学校	3.30 km
13	逆井中学校	2.60 km
14	松葉中学校	1.50 km
15	中原中学校	2.40 km
16	豊四季中学校	1.80 km
17	風早中学校	5.00 km
18	手賀中学校	4.80 km
19	大津ヶ丘中学校	4.20 km
20	高柳中学校	2.50 km
21	柏の葉中学校	1.80 km
1校あたり平均		2.70 km

【国が示す通学距離の基準】

- 小学生：4 km以内
- 中学生：6 km以内

※通学時間は「おおむね1時間以内」
 ※文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き（平成27年1月27日）」より



全校ともに国が示す基準内の通学距離ではあるものの、昨今の夏場の猛暑や台風等の気象状況の変化を踏まえ、子ども達にとって「安全」かつ「過度な負担とならない」対策が必要と認識

6 通学路の安全対策



(2) 取り組んでいる通学路の安全対策

柏市通学路交通安全対策プログラムによる活動を継続して実施

- ➡ 平成26年2月に、道路管理者、警察、学校関係者等により構成された「柏市通学路交通安全対策推進会議」を設立
- ➡ 通学路の安全確保に向けて、着実かつ効果的な取り組みを推進

具体的な活動の流れ

- ① 市教育委員会が中心となり、**全ての小学校（42校）から交通安全対策要望をとりまとめ**
↓
- ② 「柏市通学路交通安全対策推進会議」にて関係機関と共有し、**具体的かつ効果的な安全対策を検討**
↓
- ③ 各機関により合同または個別での現地点検を実施した上で、スクールゾーンの路面標示や青信号時間の延長などの**安全対策を実行**

【関係機関による現地調査の様子】



※ その他、

- ・ 各学校の**交通安全ボランティアの方々**と連携した**登下校時の旗振り活動**
- ・ 警察や交通安全協会等と連携した「**交通安全教室**」の開催
- ・ **交通安全グッズ**の購入や配布

などの活動を実施

【登下校時の旗振り活動】



【交通安全教室】



【交通安全備品】



6 通学路の安全対策

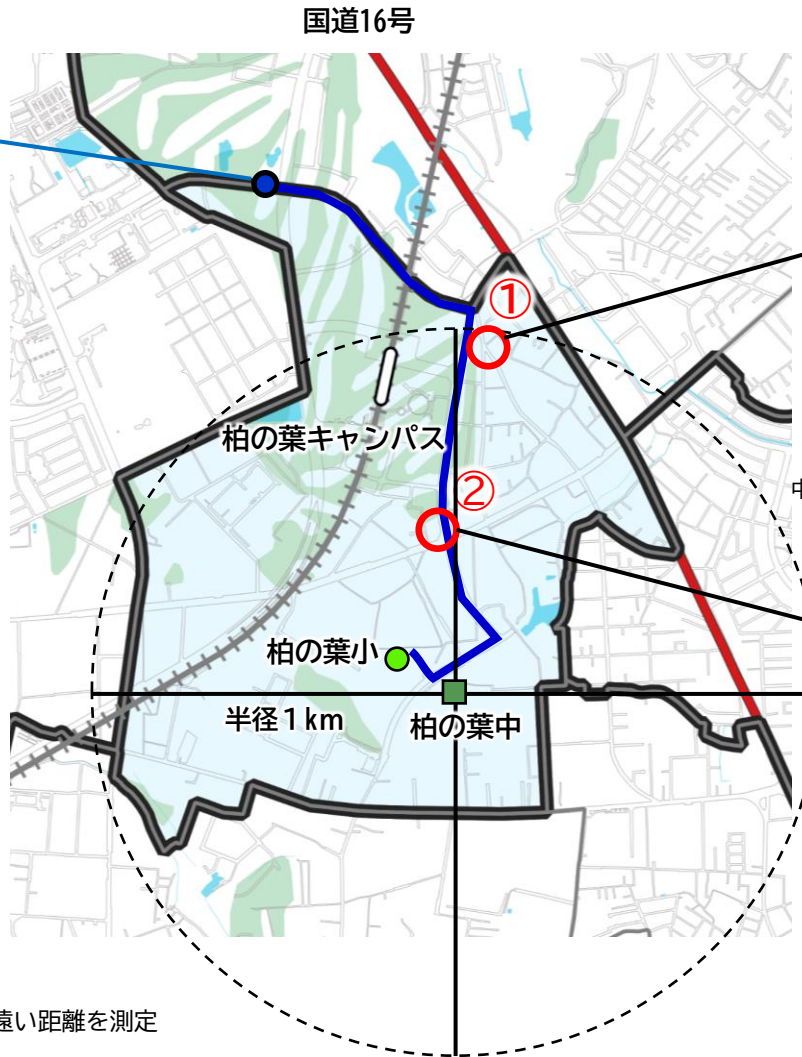


(3) 通学路の危険個所の例

■ 柏の葉中学校区

【最長通学距離の場所】
柏の葉小から1.9km
柏の葉中から1.8km

- 小学校
- 中学校
- 中学校区
- 小学校区
- 国道
- 最長通学経路【柏の葉小】



① 3つに分かれる道路で交通量も多い



② 通り抜け車両や大型車両の交通量が多い



0m 500m 1000m

出典：柏の葉小学校調べ
通学路図の通学経路から最も遠い距離を測定

6 通学路の安全対策



(3) 通学路の危険個所の例

■ 柏中学校区

② 路面標示が見つらい



① 道路幅が狭く交通量が多い



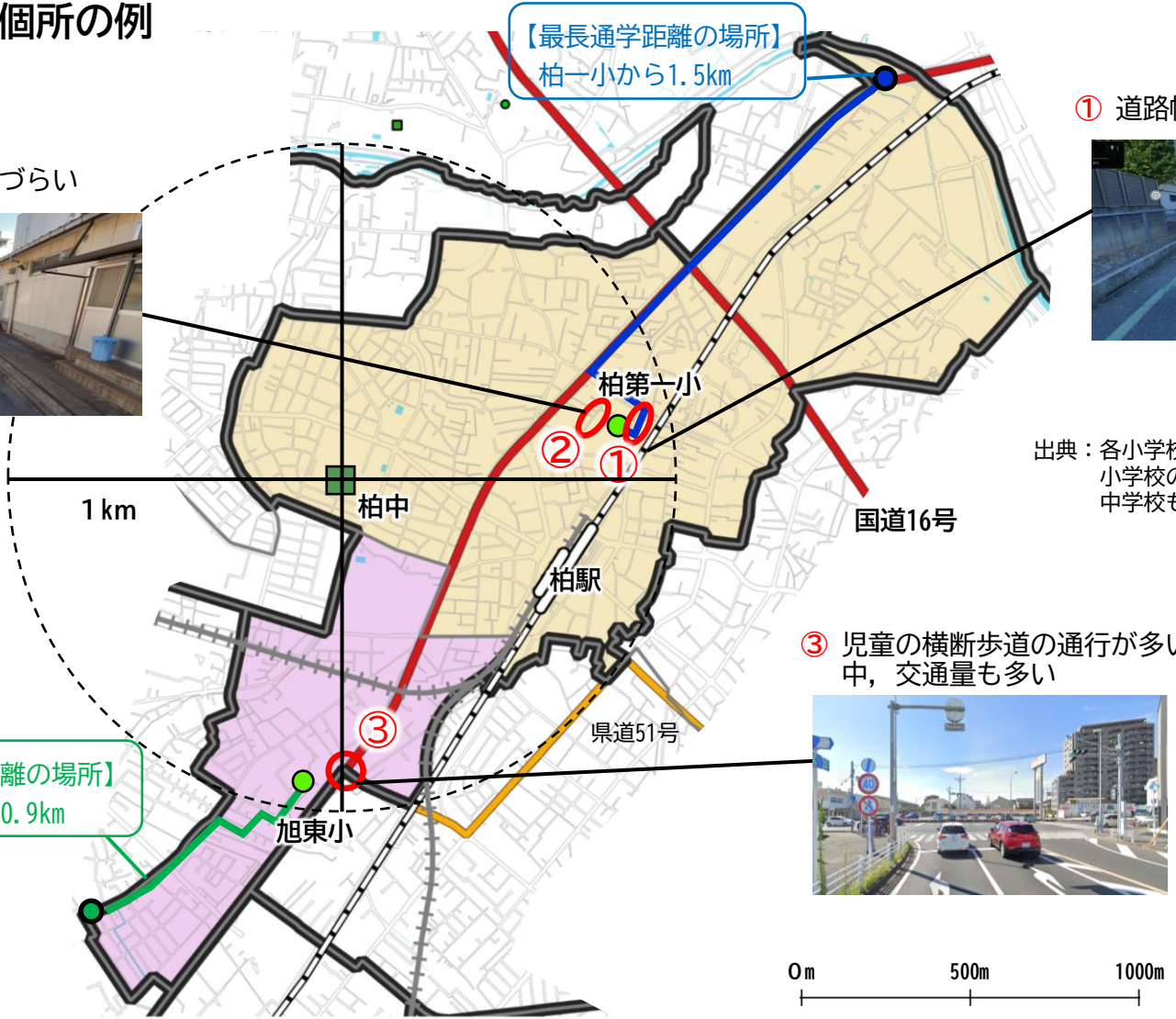
出典：各小学校調べ
小学校の通学路図の通学経路から最も遠い距離を測定し、経路描画
中学校も同じ起点とした

③ 児童の横断歩道の通行が多い中、交通量も多い



【最長通学距離の場所】
柏一小から1.5km

【最長通学距離の場所】
旭東小から0.9km



- 小学校
- 中学校
- 中学校区
- 小学校区
- 国道
- 県道
- 最長通学経路【柏第一小】
- 最長通学経路【旭東小】

6 通学路の安全対策



(4) 他自治体の基準

■ 千葉県内の他自治体における通学基準

自治体名	通学距離基準・目安
流山市	【小学校】 おおむね 2 km 以内 【中学校】 おおむね 3 km 以内
印西市	【小学校】 おおむね 4 km 以内 【中学校】 おおむね 6 km 以内 ※通学時間は「おおむね 1 時間以内」
船橋市	【小学校】 おおむね 3 km 以内 【中学校】 おおむね 4 km 以内 ※通学時間は 1 時間を超えることは考えにくくことを理由に「設定しない」
市川市	【小学校】 おおむね 4 km 以内 【中学校】 おおむね 6 km 以内
柏市	【小学校】 おおむね 4 km 以内 【中学校】 おおむね 6 km 以内 ※通学時間は「おおむね 1 時間以内とし、児童生徒の負担軽減のため、極力、40 分以内を目指す」

※国の基準は「小学校 4 km 以内」「中学校 6 km 以内」、通学時間は「おおむね 1 時間以内」

(5) 通学距離と通学時間の関係性

■ 児童生徒の通学距離と時間に関する調査結果がないため、昨年11月に市内小学校で実地調査

- 低学年(小1~小3)の児童のうち、**最長距離を**通学している児童の下校時における**通学時間を調査**
- 各学年1名ずつを調査
- 調査時間帯：小1・小2→14:30下校、小3→15:10下校
- 機器による差異が生じないように、調査実施者3名が共通の距離及び時間計測アプリ (Samsung Health) を使用し計測

【調査の結果】

対象児童	自宅までの距離 (m)	要した時間 (分)	2 kmに要する時間 (分)	備考
小学1年生男子	2,540	37	29	<ul style="list-style-type: none"> 3~4人の集団で帰宅 時々ふざけながら (傘で遊びながら) 1人になると歩くスピードが加速
小学2年生男子	2,710	43	32	
小学3年生男子	2,680	36	27	
3名の平均	2,643	39	29	

(参考：成人の所要時間)
※調査実施者が児童と同じ距離を歩いた際に要した時間

	距離 (m)	要した時間 (分)	2 kmに要する時間 (分)
調査実施者A	2,540	30	24
調査実施者B	2,710	34	25
調査実施者C	2,680	30	22
3名の平均	2,643	31	24

❖ 小学校低学年が 2 km 歩くのに約 29 分を要する

❖ 小学校低学年は大人よりも約 1.2 倍の時間を要する

※なお、町田市では子どもが 2 km 歩くのに要する時間を 30 分と設定

6 通学路の安全対策



(6) 他自治体におけるスクールバスの運行状況

ア 千葉県内自治体の導入事例

○赤字は、スクールバス導入経緯とスクールバス対象者について

自治体	白井市（千葉県）		君津市（千葉県）		富津市（千葉県）	
人口	62,671人（令和5年11月末現在）		80,448人（令和5年11月末現在）		41,182人（令和5年11月末現在）	
学校数	小学校9校	中学校6校	小学校12校	中学校7校	小学校8校	中学校3校
運営形態	<ul style="list-style-type: none"> バス事業者への運行業務委託（車両も含めた全業務） 		<ul style="list-style-type: none"> 民間事業者に運行業務委託 		<ul style="list-style-type: none"> 民間事業者（羽田空港交通）に専用スクールバスの運行業務を委託 民間の事業者がバスを所有・調達。 	
地域概要	<ul style="list-style-type: none"> 千葉県の北西部に位置し、都心や成田空港までのアクセスの良く、東京ベッドタウンとして千葉ニュータウンとともに発展した自治体 		<ul style="list-style-type: none"> 房総半島のほぼ中央部に位置し、北西部は東京湾に面している自治体 市域は内陸部の東部・南部が広大で、県内第2位の面積を有する 		<ul style="list-style-type: none"> 東京湾に面する房総半島南部の自治体 スクールバスを導入したのは天羽地域 	
経緯・沿革	<ul style="list-style-type: none"> 八街市の通学路での事故を受けて、<u>通学路の安全対策として</u>令和4年4月より試行導入 交通量の多い国道16号、歩道が狭い、路側帯がない木下街道・風間街道を通学路としている学校が対象（導入校：白井第一小学校、白井第二小学校） 令和6年度から正式に運行することを決定 		<ul style="list-style-type: none"> 学校統合に伴う通学区域の見直しにより、通学区域が広範囲になった児童生徒に対し、<u>通学基準（小学校が概ね4km以内、中学校が概ね6km以内または通学時間が概ね60分以内）を超える児童生徒の通学手段</u>として、小中学校5校でスクールバスを運行（計24台） 		<ul style="list-style-type: none"> <u>令和2年4月に実施された小・中学校の再配置により大佐和地区及び天羽地区において、スクールバスの運行開始</u> 11路線の内2路線（山中線、関豊線）で市民混乗が可能 	
コスト等	<ul style="list-style-type: none"> 試行運行時は、事業費 3,311万円≪1台あたり平均約600万円≫。 令和6年度から令和10年度まで 24,072万円予定（※年間約4,800万円） 		<ul style="list-style-type: none"> 運行委託費として、令和4年度予算額：2億5,300万円 		<ul style="list-style-type: none"> 自治体が事業者へ業務委託料を支払っている。行政負担額：約1億円（令和3年度）。 	
利用者負担・対象範囲	<p>【試行運行時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>利用基準：道路が狭く、路側帯がない、交通量が多い等、通学距離の目安1.5キロ程度</u> 白井第一小学校：マイクロバス 2台（2路線運行）朝夕2便 乗車対象者数 35人 白井第二小学校：マイクロバス 3台（2路線運行）朝夕2便 乗車対象者 63名 利用者負担：無料 		<ul style="list-style-type: none"> 周東中学校、上総小櫃中学校、清和小学校、小糸小学校、上総小学校で運行（朝1便、夕2便（計画時）） スクールバスの運行状況を確認できるアプリを導入 利用者負担：無料 スクールバスの日中の空き時間を活用した実証運行「<u>こいとバス</u>」を運行。買い物や通院などで利用可能 		<ul style="list-style-type: none"> 利用者負担：無料。 <u>大佐和中学校、天羽中学校、天羽小学校、環小学校の遠距離の児童生徒が対象。</u> 登下校の便は一部路線を除き、朝夕2便ずつ。登校時は、児童生徒が乗車する便は固定されていない。下校時は教職員が当日の便乗者の確認を行う。 山中路線及び関豊路線の朝2便は、環小学校まで住民混乗運行。住民から運賃は徴収しない。 	

6 通学路の安全対策



(6) 他自治体におけるスクールバスの運行状況

イ 県外自治体の導入事例

○赤字は、スクールバス導入経緯とスクールバス対象者について

自治体	旭川市（北海道） ※中核市	日光市（栃木県）	春日部市（埼玉県）
人口	320,436人（令和6年1月1日現在）	76,488人（令和5年12月1日現在）	230,742人（令和5年12月1日現在）
学校数	小学校51校 中学校26校	小学校23校 中学校15校	小学校22校 中学校11校 義務教育学校1校
運営形態	・「直営」のスクールバスと「事業委託」によるタクシー及びマイクロバスを運行	・混合型。自治体所有の直営の専用スクールバスと民間委託の専用スクールバスを運営 ・教育委員会がバスを管理	・民間事業者に運行業務委託
地域概要	・北海道のほぼ中央に位置する雄大な大雪山連峰を抱える自治体。年間の寒暖差、昼夜の寒暖差がともに大きい	・複数の市町村が合併し、山間部や平野部など、多様な地形を含む広域の自治体	・埼玉県の東部に位置し、南北東西に国道・鉄道があり、都心への交通アクセスが良い
経緯・沿革	・学校統廃合により通学距離が延伸した児童生徒の通学手段を確保するため運行 ・令和3年度時点で、 9小学校と7中学校を対象に運行	・昭和38（1963）年や昭和48（1973）年の廃校に伴い、順次スクールバスを導入 ・平成18（2006）年にスクールバスの利用対象地域を拡大 ・平成18（2006）年に近隣町村と合併	・平成31年度の江戸川小中学校の開校（富多小学校、宝珠花小学校、江戸川中学校を統合し江戸川中学校の場所に開校）に伴い、 通学する学区内の児童の通学距離が延長されることから、登下校時における児童の安心安全を確保するためスクールバスを導入 ・スクールバスの対象は小学生で、中学生は徒歩または自転車通学
コスト等	・令和3年度時点で、利用者総数は95人で、合計事業費は約4,000万円	・利用者は小学校6校の152名と中学校4校の40名 ・運営費用は直営10台が約1,606万円、委託1台が約330万円	・令和元年度予算額 1,596万円
利用者負担・対象範囲	・利用者負担：スクールバス利用は無料 ・対象範囲： ●閉校になった小中学校の旧通学区域内に居住する児童又は生徒であること ● 自宅と在学する学校との間の通常の合理的な公道の片道の経路の距離が2km以上の児童又は3km以上の生徒であること ※上記理由以外で身体面、健康上の理由等の事由があり、運行経路の変更や定員に余剰がある場合、特例乗車を認めることがある	・利用者負担：無料 ・ 利用対象者は、「日光市スクールバス運行条例」で定められた対象地区の児童生徒	・ 乗車対象者：春日部市立江戸川小中学校区内に居住している前期課程1年生から6年生（距離制限なし） ・4ルート（宝珠花2ルート 富多2ルート） ・各ルート 登校時1便 下校時3便 ・バス乗降場所：バスの乗降場所は概ね自宅から300mを目安になるよう設置 ・マイクロバス2台を運行

★ この他、中核市を含め多くの自治体で運行実績あり
（主な運行要件は「学校の統廃合により通学距離が延伸した場合」）

出典：各自治体ホームページ及び聞き取り結果等をもとに作成